

第 6 回 多治見市総合計画策定市民委員会 会議録	
日 時	令和元（2019）年 8 月 6 日（火）15 時 00 分～17 時 00 分
会 場	ヤマカまなびパーク（学習館） 7 階 多目的ホール
出席委員	菊地裕幸委員（会長）、鈴木亜紀子委員（副会長）、伊藤健委員、木下貴子委員、桑原真紀委員、佐藤薫委員、柴田真希委員、仙石治郎委員、高木重則委員、丹羽一貴委員、堀尾憲慈委員、向井一仁委員、山田美穂委員 （委員 15 名 13 名出席）
欠席委員	加納明子委員、山本真行委員
事 務 局	鈴木企画部長、伊藤企画防災課長、小木曾課長代理、武井総括主査、後藤総括主査、前原主査、土本主査
傍 聴 人	3 名
会議録要旨	
1	挨拶（企画防災課長）
2	議事（1）「基本構想」見直し案について <p>会長 資料 3 について事務局に説明を求める。</p> <p>事務局 （資料 3 について説明）</p> <p>会長 「基本構想」についてはすでに委員会からの意見を事務局側に伝えているのであとは一般市民の方々の意見や 12 月議会での審議に委ねることになるが、今一度伝えておきたい意見はあるか。</p> <p>委員 （なし）</p>
2	議事（2）「基本計画」見直し案について <p>会長 資料 4、5 について事務局に説明を求める。</p> <p>事務局 （資料 4、5 について説明）</p> <p>委員 総合計画コード「302025」について、コードの末尾の数字が「5」になっているような事業がいくつかあるが、どのような意味があるのか</p> <p>事務局 第 7 次総合計画（前期計画）を策定した当初は、事業ごとに 10 刻みでコードを振っており、その後、前期計画期間中に事業が追加となった際に、10 刻みの間をとって末尾が「5」となるコードを振っていたことによるもの。つまり、末尾が「5」で終わっている事業は前期計画期間中に途中で追加となった事業ということになる。今回、後期計画を策定する際には、この事業ごとのコードを再度、事務局側で事務的な作業として調整させていただく予定としている。</p>

会長 鋭いご指摘を有難うございます。

委員 総合計画コード「305010」の観光分野における6市1町によるネットワーク化と、総合計画コード「602050」のセラミックバレー構想について、広域連携をして、さらにそのリーダーシップを多治見市がとるとするのは楽しみ。特に、美濃焼産地の活性化が課題となる中で、「セラミックバレー」とは具体的に何かというところを今後、具体的に落とし込んでいくことに期待をしている。

事務局 「セラミックバレー」は前回の国際陶磁器フェスティバルでキャッチコピーとして使ったもの。来年開催予定の国際陶磁器フェスティバルでも活用する予定だが、それ以外でもこのキャッチコピーを活用できないか探っていくもの。

委員 総合計画コード「602040」について、先進自治体の事例や今後の活用の方向性が分かれば教えて欲しい。

事務局 他の自治体では、税金や生活保護などを扱う部署において、定型的な業務をAIを活用して効率化したり、市役所に関する市民からの質問に対して自動で回答を作成して回答したりという事例があるが、費用対効果という面でまだ課題があると認識している。当面はそのあたりを研究・検証したいと考えている。

委員 総合計画コード「201040」について、事業の内容を詳しく教えて欲しい。私自身、駅の禁煙エリアで堂々と喫煙している人に注意をした経験があるが、中には注意をしにくい場所や表示が分かりにくいところもあるように思う。以前、この市民委員会の場でも、「いっそ喫煙できるエリアを設けてはどうか」という提案もあったが、事務局側からは、「多治見市は喫煙エリアを設けるということはせず、禁煙の方針」との回答があったので、そういうことであれば、この新たな事業は、例えば、禁煙エリアの表示を強化するというような方向性の事業となるのか。

事務局 多治見市は公共施設の敷地内禁煙をやっているが、国の法律が改正され、公共的な施設では禁煙または分煙、飲食店でも分煙を進めるというような内容となる。この事業名にもある条例では、国のそういった法律改正に上乘せ・横出しするような形の内容の条例をつくらうとしている。具体的には、禁煙とする施設を指定したり、民間の施設についても禁煙してもらうようお願いをしたり、周知のための看板を設置したりという内容を考えている。

委員 総合計画コード「102070」について、児童館はかなり老朽化が進んでいる。以前の市民委員会で、「本当に各校区に一つずつ児童館は必要なのか、必要性についての議論を始めて欲しい」と提案した際に、事務局側からは、「多治見市は公共施設の複合化を進めることで対応していきたい」と回答があったが、事業名にもある「児童館整備計画」では具体的にどのような計画が進められることとなるのか。

また、一点お願いになるが、話題に挙がることの多い保育園の保育士さん同様、施設で働く職員の職場環境についても改善していくと良いと感じている。

事務局 「児童館整備計画」では、本土児童館と精華公民館の統合という計画や、坂上児童館と養正公民館との統合などを検討している。施設の数には減らしながら、機能は維持していくという考えで進めていく方針。

委員 総合計画コード「104140」について、この事業名からは、「笠原小中学校での一貫

- 教育」が一定の成果を上げたと同えるが、具体的にはどのような成果があったのか。
- 事務局 他の学校区と異なり、笠原は小中9年間ずっと同じ顔触れなので、仲間意識が育まれるとか、幼保も含め小中一貫して英語教育に取り組めることなど。この事業ではそういった成果も含めて、研究を進めていくという事業内容となっている。
- 委員 総合計画コード「602050」について、新しい可能性を感じる事業だと思う。4市で今後のビジョンという共通認識はあるのか、多治見市はどういった役割を担うのか。
- 事務局 観光や産業の枠を越えて、いろんな分野で活用していきたい。現状、4市で共通のビジョンを持っているわけではなく、今後、そのあたりも含めて検討していきたい。例えば、多治見市では現在、シティプロモーションに力を入れているが、そういった際に従来であれば、「美濃陶産地」と謳う場面で「セラミックバレー」を使うなども考えられる。ロゴマークも活用してPRしていきたい。
- 委員 総合計画コード「303010」について、以前の市民委員会の場で私が発言した、「BCP」に関して、災害に強い企業、災害に強い街というコンセプトで是非、具体的な支援策を加えていただきたい。
- また、「新たな中小企業の支援策の検討」について、ICT リテラシーについての情報が不足している事業者も多い。そういった点でも支援策を検討して欲しい。瀬戸市にある中小企業大学で講座を受講したときに、多治見市から助成を受けた記憶があるが、例えばそういった形でも良いと思う。
- 事務局 具体的なご提案もいただいたので、現状の支援状況も確認しながら担当課と共有して今後の参考にさせていただく。
- 委員 総合計画コード「603040」について、マイナンバーカードを活用とは具体的にはどういったことを指しているのか。
- 事務局 当初は例えば、コンビニエンスストアでの証明書の発行などに活用することを想定していたが、今、具体的には健康保険証についてマイナンバーカードを使うことや自治体ポイントとの連携という可能性も出てきたようなので、そういったことを検討するもの。
- 委員 総合計画コード「301010」、「301020」、「301030」、「602050」について、セラミックバレーの取組みはどういった業界を巻き込むことを考えているのか。前回の国際陶磁器フェスティバルでは、「セラミックバレー通信」というものを発行していたと思うが、あまり国際陶磁器フェスティバルの事務局に抱え込ませてしまうことなく、いろんな業界が関わる取組みになれば良いと思う。業界を応援してくれる関係団体が出てくれば良い。
- 事務局 官民連携してやっていくことになる。現状ではまず4市でどうやって活用していくのかを検討していく段階。
- 委員 市民委員会が関わることで、当初、行政側が想定していた事業計画から何が変わったのか。事務局で大きく変わったところを3つほど示して欲しい。
- 事務局 「基本計画」について、基本計画事業名にズバリ反映できたのは、防犯カメラについての取組みである「501100」、AI等を活用した取組み「602040」、セラミックバレー

一を活用した取組み「602050」。また、「基本構想」について戴いた市民委員会からのご意見はほぼすべて反映できていると認識している。

会長 この市民委員会では多くの意見が出た。すべての意見を事業計画に反映するのは難しかったと思うが、行政側には委員会で出た意見を心に留めていただき、今後の市政の中で反映できるところは是非、反映して行って欲しい。

2 議事（3）8/23 市長報告に向けて

会長 資料6について事務局に説明を求める。

事務局 （資料6について説明）

会長 それでは次回の市長報告の際に申し添えるものとして、委員会の感想等も含めて、「今後4年間の多治見市政に期待すること」を各委員から一言ずつ戴く。

委員 多治見に限らず、全国の自治体は人口減少や経済の持続的な成長が課題となっている。経済の面では特に、若者が戻って来られる場所、働く場所をつくるための取組みが求められている。この総合計画の中にはそういった取組みがすでに盛り込んである、パーツは揃っている。あとはそのパーツを組み合わせて好循環が生まれることを期待する。また、引き続き、東美濃地域の中核都市として、リーダーシップの発揮を期待します。

委員 多治見市の人口がこれ以上減少せず、増えて行って欲しいと思う。そのために、一つは企業や事業者には選ばれる街、もう一つは人々に住む場所として選ばれる街になるための仕組みづくりに期待したい。企業や事業者には選ばれる街にするためには、多治見市で事業をするメリットがあると良い。例えば、多治見市の事業者が使える決済のシステムなど、一事業者で作ろうとすると難しいものを多治見市が提供するなど。また、女性が働くため必要な具体的な施策にも期待したい。

委員 私は常々、場所があるから人が集まるのではなく、そこに活性化する人がいるから人が集まって地域が活性化すると思っている。だからこそ多治見市には、地域で暮らす人々を大切にしようとするような街であって欲しい。多治見を選んだ人が「住んで良かった」と思える街づくりをしていきたい。多治見市の職員にはもっと地域に足を運んでもらって、市民や団体と、「共につくる」を実践していただきたい。

委員 子育て家庭への支援の充実を望む。早く、たくさん、確実に、正確に、を求められる社会の中で子育てをするのは大変厳しい。それまで自分の意見を持って、それを出しながら生活してきた方々が、子育てをする中で窮屈になって、頭の中がいっぱいになっていってしまう姿を何度も見てきた。そういうお母さんたちのガス抜きをしてあげられるような人が育つと良い。「虐待防止＝子育てをする親の支援」だと思う。駅北庁舎3階フロアをフル活用した子育て支援の取組みに期待したい。

委員 先日、多治見市花火大会でボランティアに参加した際、「ボランティア参加者と市の職員は年に一回しか会わない」と聞いた。それはもったいない。立場は様々だが、街のために働く人同士が顔と顔を突き合わせて付き合えるのが多治見市の規模感の

街の良さ。また、これからは知恵を出して、少ない資源で過去と同じ成果を出していかなければならない時代。その基盤になるのが教育。教育は学校だけではなく、企業や地域も子どもたちに関わって重点を置いて取り組んでいけたら多治見の未来は明るくなると思う。

委員 “共に”は後期計画で出てきた新しいキーワード。多治見の規模感は本当にちょうど良い。市内にはたくさんの市民団体があるが、その団体の中で完結してしまっていることがある。市役所も市民団体も自分たちだけの独り相撲にならず、同じ方向を向いて、お互い役割分担をしながら補い合って、行政がどんどん発信しているいろんな団体を巻き込んでいって欲しい。

委員 なぜ多治見に住んでいるかと言えば、災害が少ないし自然が豊かだから。暑さという問題はあるが、あると言えばそれくらい。とても住みやすい街。最近では機会を得て、自治会の役員や多治見市の活動など、市民活動に参加するようになった。それまでは市政の情報に関心はなく、自分の生活をしていれば良いと思っていたが、今回、市民委員会に参加し、多治見市がこんなにたくさんの課題を抱えていること、その解決に向けた事業を進めていることを知って驚いた。今後、4年後にこれらの課題が少しでも解決していると良いと思う。

委員 何でもかんでも市に期待するのではなく、住みやすい街づくりはそれぞれの区、地域、住民が頑張らなければならないと思っている。行政には、人口減少対策など、地域や住民が一人で頑張っても解決できないような課題解決を強力に進めることを期待したい。

委員 今回の策定作業を通じて、多治見市が取り組む事業分野の多さを知り、正直、驚いた。多治見市民の一人として何ができるのかということ考えた。私自身は事業を多治見市で展開しているので、そういった面で貢献したい。

委員 先ほどもご発言があったが、多治見市には、働く場所として多治見市を選んでもらえる、住む場所として選んでもらえる場所であって欲しいと思う。そんな中で、私自身、社会指導者としてスポーツに関わっているが、岐阜市や大垣市などになかなか敵わない。多治見市に住む子供たちがいろんな刺激を受けて、岐阜県の中で一番になろうと思えるような環境を整えてあげたい。多治見市が、“ただ暑い街”ではなく、全国的に魅力のある街として有名になることを願う。住んでいる自分自身が誇れるような街にしていきたい。

委員 多治見市の規模はちょうど良い。文化もあり、都会も近く、産業もあり、観光資源もあり、緑も土岐川もある。土岐川に沿って高蔵寺から多治見に来るとそれだけで風光明媚なところを感じられる。こういった思いを皆さんに実感してもらいたい。また、困った人を放っておかない、誰かと繋がって助け合える街でもあるし、今後もそういう街であることを期待する。

委員 街づくりは人づくりだと思う。そこに住む人が生き活きと暮らして主体的に街づくりに関わられるかどうかは街づくりのカギになる。人と人、人と市政、地域と企業を繋ぐ役割を多治見市に担って欲しい。また、SNSとかAIなど技術が発達していくが、それを作り利用するのは人であることを考えると、より良い未来を作るのは教育が重

要。教育を考える上で重要なことの一つが親育ち。親の世代の価値観が変わり、子供会や町内会に属さない、自分の関心のあること以外はやらない、人との関りを持たない、そんな親の価値観がそのまま子どもたちに移っていくことを危惧する。親が自ら築き、学び、成長する機会をつくってあげれば良いと思う。

会長 毎回、委員の皆さんの鋭い意見、現場目線での意見を聞かせていただき、多治見市の人財の豊富さに驚いた。先ほども委員が言ったとおり、地域づくりは人がいてこそ。今後も多治見市には市民目線で、市民と協働した市政運営を期待したい。

3 その他（1）今後の日程等について

会長 事務局に説明を求める。

事務局 （説明）

会長 事務局側から、次回の市民委員会の場で、市政 80 周年事業についての意見を市民委員から聴取したい旨、提案があったがいかがか。

委員 （異議なし）

会長 それでは次回の市民委員会の場で意見聴取することとする。

<会議終了>